都市再生整備計画　事後評価シート

大野城地区

令和２年２月

福岡県大野城市

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県	市町村名	大野城市	地区名	大野城地区			面積	562ha
交付期間	平成27年度～令和元年度	事後評価実施時期	令和元年度	交付対象事業費	2,698百万円	国費率	0.364		

1）事業の実施状況

		事業名
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路事業（白木原・水城駅線）、公園事業（乙金公園）、地域生活基盤施設（小水城跡広場、サイン整備：大野城トレイル）、高次都市施設（地域交流センター：大野城心のふるさと館）
	提案事業	地域創造支援事業（地域交流センター：大野城心のふるさと館）　事業活用調査（事業効果分析業務）

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	なし		
	提案事業	なし		
新たに追加した事業	基幹事業	公園事業（善一田古墳公園整備）	本計画の目標を達成するために古墳公園としての整備を追加	目標を達成するため事業を追加。事業の追加に伴い、指標1の目標値を上方修正。
	提案事業	なし		

交付期間の変更			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響
	当　初	平成27年度～平成30年度	
	変　更	平成27年度～令和元年度	

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

	指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	市内史跡等でのイベントの開催回数及び集客人数		回（人）	10回（1,772人）	H25年度	17回（3,000人）	R1年度		85回（5,762人）	○	あり		大野城心のふるさと館整備や大野城トレイルサイン整備等による整備効果により、歴史資源など地域資源を活用した市民間交流のイベントや集客人数が大幅に増加し、地域の魅力向上に寄与したと考えられ、目標値を達成することができた。	R2年4月
											なし			
指標2	地域にある自然、歴史、文化、産業などを活用したまちづくりの達成度に関する市民評価		点	3.20	H25年度	3.29	R1年度	3.20（平成27年） 3.20（平成28年） 3.20（平成29年）	3.32	○	あり		善一田古墳公園及び小水城跡広場整備による整備等効果により、地域にある自然、歴史、文化、産業などを活用したまちづくりに対する満足度が向上し、快適で暮らしやすいまちづくりに寄与したと考えられ、目標値を達成することができた。	
											なし			
指標3											あり			
											なし			
指標4											あり			
											なし			

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

	指　標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1												
その他の数値指標2												
その他の数値指標3												
その他の数値指標4												

4）定性的な効果発現状況

・大野城心のふるさと館の事業運営の支援を行うボランティアスタッフである「ふるサポの会」に、現在約80名もの方がスタッフとしてイベントや展示の解説等の運営活動をしており、ふるさと大野城への理解や市民間の交流が促進されている。
・大野城心のふるさと館は子供たちの利用が多く、また子どもから大人まで楽しめる各種事業（展示、講演会、講座、体験型イベント等）が数多く開催されており、多世代で大野城の自然や歴史を学習・体験していることから、また人が集まるスペースやカフェ等、多目的な利用ができる施設となっており、日常的にも活用されていることから、地域の魅力向上や多世代間での市民交流が促進されている。
・大野城心のふるさと館が開館1年で目標の10万人来館を達成したことや、善一田古墳公園や小水城跡広場で地域と共同で行ったイベントが好評であったこと、またワークショップの参加者がイベントに参加していたり、多くのイベントで参加人数が増えていることから、市民のまちづくりに対する意欲や理解が向上している。
・小水城跡広場を整備したことにより、小水城という文化財の価値観を市民が再発見するという意味ではとても有効的に活用されている。

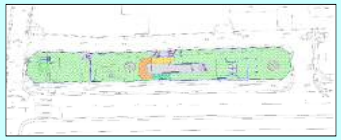
5）実施過程の評価

	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
モニタリング	・まちの姿アンケート調査（市民アンケート調査）によるモニタリング	都市再生整備計画に記載し、実施できた		・モニタリング同様に毎年度の「まちの姿アンケート調査（市民アンケート調査）」により確認する。
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
住民参加プロセス	・大野城心のふるさと館整備プランのための市民ワークショップ ・小水城跡広場整備プランのための住民ワークショップ ・善一田古墳公園整備プランのための住民ワークショップ ・乙金公園再整備プランのための住民ワークショップ	都市再生整備計画に記載し、実施できた		・今後も市民の意見を聞いて、施設の管理、運営の向上を図る。 ・今後も住民の意見を聞いて、公園・広場の魅力向上を図る。
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
持続的なまちづくり体制の構築	・大野城心のふるさと館内の「ここふるショップ」を地元関係者が運営する実行委員会の構築 ・大野城心のふるさと館の事業運営の支援を行うボランティア組織（ふるサポの会）の構築	都市再生整備計画に記載し、実施できた		・ここふるショップやふるサポの会を通じて、ふるさと大野城への理解促進や地域資源を活用した市民の交流促進及び地域の活性化を図る。
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式２－２　地区の概要

大野城地区（福岡県大野城市）　都市再生整備計画事業の成果概要

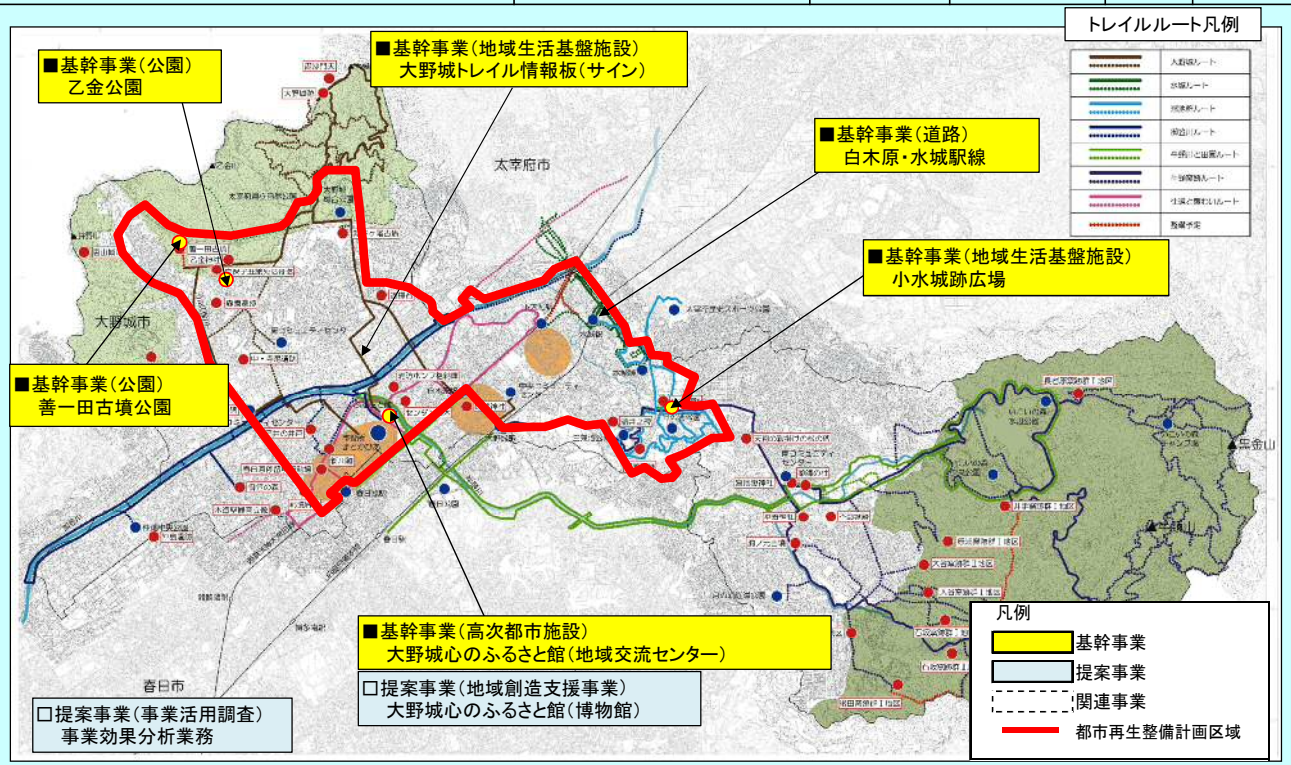
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標 歴史資源などの地域資源を活用して、地域の魅力向上と快適で暮らしやすいまちづくりを図る。 目標１：歴史資源など地域資源を学習・体験する活動を通じて、住民間交流の促進を目指す。 目標２：都市機能の整備推進により、市民が安心して安全に生活できる快適で暮らしやすいまちづくりを目指す。	市内史跡等でのイベントの開催回数及び集客人数	単位：　回（人）	10回 （1,772人）	H25	17回 （3,000人）	R1	85回 （5,762人）	R1
	地域にある自然、歴史、文化、産業などを活用したまちづくりの達成度に関する市民評価	単位：　点	3.20	H25	3.29	R1	3.32	R1



乙金公園再生事業
（整備イメージ）

善一田古墳公園整備事業

大野城心のふるさと館整備事業



大野城トレイル情報板整備事業

白木原・水城駅線歩道整備事業

小水城跡広場整備事業

まちの課題の変化	・歴史資源など地域資源を活用した情報発信と市民交流の拠点施設として大野城心のふるさと館を整備したことにより、郷土理解、郷土意識を高めるための各種事業（展示、講演会、講座、体験型イベント等）を数多く開催できるようになり、これらのイベント等には市民はもとより、市外の方の参加も数多くみられた。また多目的に使える施設になり、日常的な活用にも繋がった。 ・発掘された大規模な遺跡を古墳公園として善一田古墳公園、また小水城跡広場を整備したことにより、文化財の学習の場、人々のくつろぎの場となり、住民間の交流が促進され、イベント回数や集客人数の増加に繋がった。 ・大野城トレイルに情報板が整備されたことにより、地域住民はもとより、市外から訪れる方が、市内に点在する地域資源を回遊できる環境が整い、アクセスの利便性が向上した。
今後のまちづくりの方策 （改善策を含む）	・市と市民、地域団体等との連携を更に深め、心のふるさと館、善一田古墳公園、小水城跡広場を活用し、継続的にイベントを企画・実施し、幅広く周知を行う。 ・市内に点在する地域資源を回遊できる大野城トレイルを活用し、市民の交流促進を図るため、トレイルルートであり、新たな地域資源でもある西鉄高架下を有効活用し、公園、広場、遊歩道、イベントスペース等を設置し、住民間の交流を促進する。 ・市、企業、地域住民の連携による大野城トレイルの活用及び周知を行う。 ・残された白木原・水城駅線の歩道整備を行う。 ・公園や広場の日常的に利用できる施策や更なる情報発信を行う。

都市再生整備計画　事後評価シート
（添付書類）

（1）成果の評価

添付様式1－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
添付様式1－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（完成状況）
添付様式2－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
~~添付様式2－②　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）により計測される効果発現の計測~~
添付様式2－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

（2）実施過程の評価

添付様式3－①　モニタリングの実施状況
添付様式3－②　住民参加プロセスの実施状況
添付様式3－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

（3）効果発現要因の整理

添付様式4－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制
添付様式4－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
~~添付様式4－③　数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理~~

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制
添付様式5－②　まちの課題の変化
添付様式5－③　今後のまちづくり方策
添付様式5－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見
添付様式5－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
添付様式6　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
添付様式6－参考記述　今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　事後評価原案の公表

（6）評価委員会の審議

添付様式8　評価委員会の審議

~~（7）有識者からの意見聴取~~

~~添付様式9　有識者からの意見聴取~~

（1）成果の評価

添付様式１－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		指標-1：市内史跡等でのイベントの開催回数　及び集客人数　15回（2,700人） 指標-2：地域にある自然、歴史、文化、産業などを活用したまちづくりの達成度に関する市民評価　3.30点	指標-1：市内史跡等でのイベントの開催回数及び集客人数　17回（3,000人） 指標-2：地域にある自然、歴史、文化、産業などを活用したまちづくりの達成度に関する市民評価　3.29点	指標-1：目標を達成するために善一田古墳公園事業を追加。事業の追加に伴い、従前値の1.5倍から1.7倍に上方修正 指標-2：駅などを基点として、歩きながら地域の自然・文化・歴史などを楽しめる散策路、「大野城トレイル」の整備事業である白木原水城駅線の整備について、整備用地取得が困難であり、延長が短くなったため、目標値を下方修正
D. その他（　　）		●			

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	白木原・水城駅線整備事業	102.0	歩道整備 L=150m	30.0	歩道整備 L=50m	用地取得困難による整備箇所の縮小	整備用地取得が困難であり、延長が短くなったため、指標2の目標値をを下方修正。		●
公園	善一田古墳公園整備事業	－	なし	440.0	公園整備 園路・あずまや A=11,000㎡	本計画の目標を達成するために古墳公園としての整備を追加	目標を達成するため事業を追加。事業の追加に伴い、指標1の目標値を上方修正。	●	
公園	乙金公園整備事業	88.0	公園整備 植栽・遊具 A=1,100㎡	16.0	公園整備 植栽・遊具 A=490㎡	公園用地の変更による事業費減	公園用地の変更により、整備面積が縮小したが、これによる指標2への影響はなし。		●
地域生活基盤施設	小水城跡広場整備事業	30.0	広場整備 A=5,000㎡	55.0	広場整備 A=5,000㎡	設計見直しによる事業費増	広場の利用価値を高める方針として、広場整備を増工したが、これによる指標1の目標値への影響はなし。	●	
地域生活基盤施設	大野城トレイル（サイン）整備事業	52.0	サイン整備 N=70	52.0	サイン整備 N=70	－	－	●	
高次都市施設	大野城心のふるさと館整備事業	990.0	企画展示室・体験学習室・講座室・実習室・情報発信コーナー 等機能部分 A=3,000㎡	1,176.0	企画展示室・体験学習室・講座室・実習室・情報発信コーナー 等機能部分 A=3,262㎡	設計見直しによる事業費増	倉庫スペースの追加整備及び建設資材の高騰により、事業費が増加したが、これによる指標1への影響はなし。	●	

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造支援事業	大野城心のふるさと館整備事業	778.0	博物館（常設展示室、収蔵庫、調査研究室）A=3,000㎡	924.0	博物館（常設展示室、収蔵庫、調査研究室）A=3,262㎡	設計見直しによる整備費の増額	倉庫スペースの追加整備及び建設資材の高騰により、事業費が増加したが、これによる指標1の目標値への影響はなし。	●	
事業活用調査	事業効果分析業務	5.0		5.0		－	－		●

（参考）関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
－		－	－	－	－	－	－	－
－		－	－	－	－	－	－	－
－		－	－	－	－	－	－	－

添付様式２－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指　標		単位	データの計測手法と評価値の求め方（時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値（ア）	基準年度	従前値（イ）	基準年度	目標値（ウ）	目標年度	数値（エ）				目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
																あり	なし
指標1	市内史跡等でのイベントの開催回数及び集客人数	回（人）	大野城市ふるさと文化財課が保有する令和元年7月末現在の統計データを用い、4月～6月の実績値と7月～3月の過去5カ年の平均値を用いて、イベントの開催回数及び集客人数を算出し評価値を推計			10回（1,772人）	H25	17回（3,000人）	R1	モニタリング				モニタリング			
										事後評価	確定		85回（5,762人）	事後評価	○		
											見込み	●					
指標2	地域にある自然、歴史、文化、産業などを活用したまちづくりの達成度に関する市民評価	点	平成30年6月実施の第11回まちの姿アンケート調査結果から計測する達成度を5段階（5.4.3.2.1）に数値化して集計し、達成度割合として平均値を算出し、評価値を算定			3.20	H25	3.29	R1	モニタリング	3.20（平成27年） 3.20（平成28年） 3.20（平成29年）		3.32	モニタリング			
										事後評価	確定	●	3.32	事後評価	○		
											見込み						
										モニタリング				モニタリング			
										事後評価	確定			事後評価			
											見込み						
										モニタリング				モニタリング			
										事後評価	確定			事後評価			
											見込み						

指　標	目標達成度○△×の理由（達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む）	その他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）
指標1	本計画のまちづくり小目標1である歴史資源など地域資源を学習・体験する活動を通じて、住民間交流の促進を目指した各種事業の効果により、平成25年度から大幅な増加となり、年度別の調査結果を見ると、期待以上の成果があげられることができた。	
指標2	本計画のまちづくり目標である歴史資源などを地域資源を活用して、地域の魅力向上と快適で暮らしやすいまちづくりに向けた各種事業の効果により、平成30年6月の市民アンケート調査結果から数値目標を達成することができた。	
指標3		

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。
※2　目標達成度の記入方法
○ :評価値が目標値を上回った場合
△ :評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
× :評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式２－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・大野城心のふるさと館の事業運営の支援を行うボランティアスタッフである「ふるサポの会」に、現在約80名もの方がスタッフとしてイベントや展示の解説等の運営活動をしており、ふるさと大野城への理解や市民間の交流が促進されている。
・大野城心のふるさと館は子供たちの利用が多く、また子どもから大人まで楽しめる各種事業（展示、講演会、講座、体験型イベント等）が数多く開催されており、多世代で大野城の自然や歴史を学習・体験していること、また人が集まるスペースやカフェ等、多目的な利用ができる施設となっており、日常的にも活用されていることから、地域の魅力向上や多世代間での市民交流が促進されている。
・大野城心のふるさと館が開館1年で目標の10万人来館を達成したことや、善一田古墳公園や小水城跡広場で地域と共同で行ったイベントが好評であったこと、またワークショップの参加者がイベントに参加していたり、多くのイベントで参加人数が増えていることから、市民のまちづくりに対する意欲や理解が向上している。
・小水城跡広場を整備したことにより、小水城という文化財の価値観を市民が再発見するという意味ではとても有効的に活用されている。

（2）実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式３－①　モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
まちの姿アンケート調査（市民アンケート調査）によるモニタリング	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった （理由　　）	● 	【実施頻度】 毎年度1回 【実施時期】 毎年度4月～6月頃 【実施結果】 採用した指標は毎年度実施している「まちの姿アンケート調査（市民アンケート調査）」において、数値化して集計されるものであるため、モニタリングを容易に実施することができ、かつ、交付期間中に供用した事業の効果を確認することができた。	モニタリングと同様に毎年度の「まちの姿アンケート調査（市民アンケート調査）」により確認する。

添付様式３－②　住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
大野城心のふるさと館整備プランのための市民ワークショップ	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった （理由　　）	● 	【実施頻度】 各5回 【実施時期】 平成25年度～平成26年度 【実施結果】 大野城心のふるさと館の基本計画策定に向けて、住民の意見を聞き、出た意見を参考に基本計画の策定を行った。	今後も市民の意見を聞いて、施設の管理、運営の向上を図る。
小水城跡広場整備プランのための住民ワークショップ	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった （理由　　）	● 	【実施頻度】 各4回 【実施時期】 平成28年度 【実施結果】 小水城跡広場整備プラン策定に向けて、住民の意見を聞き、出た意見を参考に広場整備プランの策定を行った。	今後も住民の意見を聞いて、公園・広場の魅力向上を図る。
善一田古墳公園整備プランのための住民ワークショップ	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった （理由　　）	● 	【実施頻度】 各3回 【実施時期】 平成29年度 【実施結果】 善一田古墳公園整備プラン策定に向けて住民の意見を聞き、出た意見を参考に公園整備プランの策定を行った。	
乙金公園再整備プランのための住民ワークショップ	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった （理由　　）	● 	【実施頻度】 各2回 【実施時期】 平成30年度 【実施結果】 乙金公園再整備内容を決定するため住民の意見を聞き、出た意見を参考に、実施設計の策定を行った。	

添付様式３－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況		実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
			ⅰ．体制構築に向けた取組内容	ⅱ．まちづくり組織名：組織の概要	
大野城心のふるさと館内の「ここふるショップ」を地元関係者が運営する実行委員会の構築	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった （理由　　）	● 	大野城心のふるさと館内の「ここふるショップ」を運営する実行委員会を、平成30年に設立した。	【ここふるショップ実行委員会】 大野城心のふるさと館内に設置されたカフェ・ショップ（ここふるショップ）の運営にあたり、地元関係者（商工会、地域振興団体、事業者、福祉関係団体等）による実行委員会を設置し、ここふるショップの運営を通じ、地域資源を活用した市民の交流促進及び地域の活性化を図る。	ここふるショップを通して、市民の交流促進や地域の活性化を図る。
大野城心のふるさと館の事業運営の支援を行うボランティア組織（ふるサポの会）の構築	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった （理由　　）	● 	大野城心のふるさと館の事業運営の支援を行うボランティアの組織を、平成30年に設立した。	【ふるサポの会】 大野城心のふるさと館の運営をお手伝いいただくボランティアスタッフとして、心のふるさと館サポーター制度（ふるサポの会）を設置し、市民有志の参画による館の運営を図る。	ふるサポの会を通して、市民の交流促進や地域の活性化を図る。

（3）効果発現要因の整理

添付様式４－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
大野城地区 都市再生整備計画における事後評価庁内会議	・建設管理課 ・公園街路課 ・ふるさと文化財課 ・心のふるさと館運営課 ・都市計画課	令和元年10月25日	都市計画課

添付様式４－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2									
指　標　名		市内史跡等でのイベントの開催回数及び集客人数		地域にある自然、歴史、文化、産業などを活用したまちづくりの達成度に関する市民評価									
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	白木原・水城駅線整備事業	○	大野城心のふるさと館整備や大野城トレイルサイン整備等による整備効果により、歴史資源など地域資源を活用した市民間交流のイベントや集客人数の増加に繋がった。	○	善一田古墳公園及び小水城跡広場の整備等効果により、地域にある自然、歴史、文化、産業などを活用したまちづくりに対する満足度が向上し、快適で暮らしやすいまちづくりに寄与した。								
	乙金公園整備事業	－		○									
	善一田古墳公園整備事業	◎		◎									
	小水城跡広場整備事業	◎		◎									
	大野城トレイル（サイン）整備事業	◎		◎									
	大野城心のふるさと館整備事業	◎		◎									
提案事業	大野城心のふるさと館整備事業	◎		◎									
関連事業													
今後の活用		当事業の効果を踏まえ、多世代が大野城市の地域資源を活用した学習・体験するイベントを継続的に開催し、市内外へ情報を発信していく。		文化財を身近に感じてもらえるように、心のふるさと館での各種講座や史跡めぐりなどを充実させ、広報、ホームページを活用して、市民に対し周知を行い、ふるさと意識の醸成とまちづくりへの有効活用に努める。									

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
大野城地区 都市再生整備計画における事後評価庁内会議	・建設管理課 ・公園街路課 ・ふるさと文化財課 ・心のふるさと館運営課 ・都市計画課	令和元年10月25日	都市計画課

添付様式5－②　まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと（課題の改善状況）	残された未解決の課題	事業によって発生した新たな課題
・歴史資源を保護し、情報発信・住居交流促進に活用するための拠点施設が存在しないことから、市民の郷土理解及び郷土意識を高めるための効果的な取り組みが行えない。	・歴史資源など地域資源を活用した情報発信と市民交流の拠点施設として大野城心のふるさと館を整備したことにより、郷土理解、郷土意識を高めるための各種事業（展示、講演会、講座、体験型イベント等）を数多く開催できるようになり、これらのイベント等には市民はもとより、市外の方の参加も数多くみられた。また多目的に使える施設になり、日常的な活用にも繋がった。		・善一田古墳公園や小水城広場においては、イベント等短期的な利用は可能になったが、日常的に利用されていない部分が見受けられる。
・史跡など地域資源を活用したくつろぎと交流の場の整備が不十分であることから、住民間の交流を促進するための効果的な取り組みが行えない。	・発掘された大規模な遺跡を古墳公園として善一田古墳公園、また小水城跡広場を整備したことにより、文化財の学習の場、人々のくつろぎの場となり、住民間の交流が促進され、イベント回数や集客人数の増加に繋がった。		
・情報板及び道路の整備が不十分であり、史跡など、市内に点在する地域資源を、市民が安心して安全に回遊することができない。	・大野城トレイルに情報板が整備されたことにより、地域住民はもとより、市外から訪れる方が、市内に点在する地域資源を回遊できる環境が整い、アクセスの利便性が向上した。	・JR水城駅前の白木原・水城駅線の一部歩道区間が未整備であり、市内に点在する史跡などの地域資源を更に市民が安心して、安全に回遊することができる歩道の整備が必要。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式５－③　今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	・市民の郷土理解及び郷土意識を高めるための取組みの継続	・市と市民、地域団体等との連携を更に深め、心のふるさと館、善一田古墳公園、小水城跡広場を活用し、継続的にイベントを企画・実施し、幅広く周知を行う。	・ホームページ・SNSをはじめとする各種媒体を活用した情報発信。 ・近隣自治体との連携による市外へのPR ・市・市民・地域団体等との連携による各種イベント等の実施。
	・更なる住民間交流促進	・市内に点在する地域資源を回遊できる大野城トレイルを活用し、市民の交流促進を図るため、トレイルルートであり、新たな地域資源でもある西鉄高架下を有効活用し、公園、広場、遊歩道、イベントスペース等を設置し、住民間の交流を促進する。	・鉄道高架下を有効利用した公園、広場、遊歩道、イベントスペースの整備。
	・継続的な大野城トレイルの活用及び周知	・市、企業、地域住民の連携による大野城トレイルの活用及び周知を行う。	・トレイルを利用したまちあるきイベントの実施。 ・ホームページをはじめとする各種媒体を活用した情報発信。

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改　善　策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	・白木原・水城駅線の歩道空間の連続性を確保	・残された白木原・水城駅線の歩道整備を行う。	・白木原・水城駅線の歩道整備事業。
	・善一田古墳公園及び小水城跡広場の日常的利用の促進	・日常的に利用できる施策や更なる情報発信を行う。	・ホームページをはじめとする各種媒体を活用した情報発信。

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式５－③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。（チェック欄）

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題（都市再生整備計画）を再確認した。
●	事業の実施過程の評価（添付様式3）を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用（添付様式４－②）を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針（添付様式４－③）を再確認した。
●	残された課題や新たな課題（添付様式５－②）を再確認した。

添付様式５－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見

【公表前事前アンケート意見・庁内検討会議での意見・評価委員会での意見】
・大野城心のふるさと館では、大人から子供まで楽しめるイベント・講演会・講座が催されバラエティーに富んでいる。
・大野城トレイルは散歩に利用できそうであり、これから利用したい。また、短時間で回れるルートにして欲しい。
・善一田古墳公園と夏祭りのイベントが共同開催しており、とても良かった。年数回でもイベントを実施して欲しい。
・善一田古墳公園は雑草が生い茂っていて、管理が行き届いてないという意見があったが、今後、地元と行政が連携して、維持管理を行う体制づくりを構築していくことが課題。
・こんなところに古墳があったことを善一田古墳公園が整備されて知った。
・小水城跡広場は、駐車場やトイレ等の施設がなく、またイベントも少ないため利用する目的がない。
・心のふるさと館で歴史以外のイベントを開催したが、老若男女問わず、すごく盛況であった。
・小水城跡広場は、毎日にぎわってはいないが、高齢者の方が散歩していたり、子供が平日遊んでいたりする光景が見受けられる。

添付様式５－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式２－①、２－②に記載した全ての指標について記入して下さい。
・従前値、目標値、評価値、達成度、１年以内の達成見込みは添付様式２－①、２－②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、１年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指　標		単位	従前値	年度	目標値	年度	評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
												予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	市内史跡等でのイベントの開催回数及び集客人数	回（人）	10回（1,772人）	H25	17回（3,000人）	R1	確定		85回（5,762人）	○	あり	令和2年4月	大野城市ふるさと文化財課が保有する令和元年度のイベントの開催回数及び集客人数を計測し、確定値とする。	―
							見込み	●			なし			
指標2	地域にある自然、歴史、文化、産業などを活用したまちづくりの達成度に関する市民評価	点	3.20	H25	3.29	R1	確定	●	3.32	○	あり	令和2年6月	―	第6次大野城市総合計画の「輝くまちの個性」に関する現状値から令和元年度末に実施する「まちの姿アンケート調査」結果の関係する項目から確定値の確認を行う。
							見込み				なし			
							確定				あり			
							見込み				なし			
							確定				あり			
							見込み				なし			
その他の数値指標1							確定							
							見込み							
その他の数値指標2							確定							
							見込み							
その他の数値指標3							確定							
							見込み							
その他の数値指標4							確定							
							見込み							
							確定							
							見込み							

添付様式6　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・心のふるさと館や善一田古墳公園整備、小水城跡広場整備等による効果が得られ、歴史資源など地域資源を活用した市民や地域住民間交流のイベント開催回数や集客人数の大幅な増加に繋がった。	・事業による成果と数値目標、期待される効果等、熟考した指標を立てる必要がある。
	うまく いかなかった点	・イベント開催回数や集客人数等の目標を定量化する指標を設定する場合は、イベントの定義（イベントの内容やイベント規模等）を明確にして対外的に説明できることが必要。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・採用した指標は、大野城市が実施しているアンケート調査や市関係部署保有データ等により、毎年、数値が整理されているのであり、年度毎の評価も可能である。 ・関係各課と協議し、目標と整合性を図りながら事業を実施することができた。	・数値目標と目標・事業効果を踏まえた指標設定が必要である。
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・心のふるさと館や善一田古墳公園、乙金公園、小水城跡地広場に係る市民等ワークショップや住民説明会を行い、市民等の意見を反映させた計画策定を行うことができた。	・地域住民及び市民の意見を反映した計画にすることは重要である。 ・市民等の積極的な意見が出やすくなるような工夫（縦覧場所の設定,わかりやすい資料作成など）が必要である。
	うまく いかなかった点	・事後評価シートの公表については、定型様式の事後評価シートと概要版を作って公表したが、活発な意見は得られなかった。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・採用した指標は、大野城市が実施しているアンケート調査や市関係部署保有データ等により、毎年、数値が整理されているのであり、年度毎の評価も可能である。	・事業や年度毎の進捗管理を行い、成果を意識しながら事業を実施し、目標達成に向け、必要な改善点は速やかに行う等のマネジメントが必要である。
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点	整備事業(大野城心のふるさと館、大野城トレイル情報板整備、善一田古墳公園整備、小水城跡広場整備）の関係者等へアンケート調査を実施し、整備後の満足度ばかりでなく、今後の活用、継続に関することを意識した項目で意見を収集できたことは良かった。	
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述　今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

・今後の都市再生整備計画事業の活用予定
新たな地域資源でもある西鉄高架下を有効活用し、市民の更なる交流を図るため、（仮）中心市街地地区都市再生整備計画にて、公園、広場、遊歩道、イベントスペースの整備を行う。

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和元年11月15日～ 令和元年11月29日	令和元年11月15日～ 令和元年11月29日	担当課では以下の方法で受け付ける。 窓口受け、 郵送、 電子メール、 FAX、 提案箱への投函	建設環境部 都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布	市広報で市ホームページ及び都市計画課の窓口また市役所1階ホール他5箇所（心のふるさと館、各コミュニティーセンター）にて閲覧できる旨を記載	広報令和元年11月1日号	－		
説明会・ワークショップ	－	－	－		
その他	都市計画課の窓口また市役所1階ホール他5箇所（心のふるさと館、各コミュニティーセンター）にて閲覧可能	令和元年11月15日～ 令和元年11月29日	令和元年11月15日～ 令和元年11月29日		

住民の意見	・意見なし。 ・関係者アンケート調査（実施理由：大野城市民（関係者）の意見を伺い、今後のまちづくりに活かしたいために実施） 実施期間：2019年10月1日～2019年10月15日（15日間） 対　　象：ワークショップ、イベント参加者（満15歳以上の男女） 回答者数：87サンプル 意　　見：事後評価シート「添付様式5－参考記述今後のまちづくり方策に関するその他の意見」に反映

（6）評価委員会の審議

添付様式8　評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	大森　洋子　　都市計画審議会　会長 上瀧　今佐美　　福岡県まちづくり専門家 松永　千晶　　九州大学　都市工学研究室　助教	令和2年2月4日	都市計画課	委員会設置要領	独自に設置
その他の委員	賀来　太子　　市民代表 藤田　實　区長会　瓦田区長				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・目標を定量化する指標を設定する場合、明確な根拠づけが必要ではないかという意見があった。 ・定量的に拾えない事業効果については、定性的効果でもっと補完すべきという意見があった。
	実施過程の評価	・モニタリング，住民参加プロセス、持続可能なまちづくり体制の構築が適切に実施していることが確認された。
	効果発現要因の整理	・数値目標に対する指標と各事業との関係性について整理されている内容が妥当であると認められた。
	事後評価原案の公表の妥当性	・市民の方にもっと理解しやすい「公表の見せ方」があるのではないかという意見があった。
	その他	・なし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きが妥当に進められていることについて、出来ていることが確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・心のふるさと館や公園・広場等において、日常的に何かしら、使えるという部分をもう少し、打ち出されたほうがいいという意見があった。 ・今回整備した施設（公園や広場等）の維持管理等のあり方について、地域、行政、その他関係団体と協議していくことが重要であるとの意見があった。
	フォローアップ	・適切なフォローアップ計画であることが確認された。
	その他	・心のふるさと館や小水城跡広場の整備後、効果的に活用されていることについて、市民視点での貴重な意見があった。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策について妥当であると認められた。 （委員会の貴重な意見を、一度事務局で整理し、評価員の了承を得ることとする）
その他		・今後は、大野城市と隣接自治体との連携し、広域から人を呼べるような横展開のPRが重要という意見があった。

※1　審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画（第6回変更）

大野城（おおのじょう）地区

福岡（ふくおか）県　大野城（おおのじょう）市（し）

平成30年11月13日

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	福岡県	市町村名	大野城市	地区名	大野城地区	面積	562 ha

計画期間	平成 27 年度 ～ 平成 31 年度	交付期間	平成 27 年度 ～ 平成 31 年度

目標

大目標　歴史資源など地域資源を活用して、地域の魅力向上と快適で暮らしやすいまちづくりを図る。
目標１　歴史資源など地域資源を学習・体験する活動を通じて、住民間交流の促進を目指す。
目標２　都市機能の整備推進により、市民が安心して安全に生活できる快適で暮らしやすいまちづくりを目指す。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

【経緯】
・福岡市の南に隣接する大野城市は、2本の鉄道（JR鹿児島本線・西鉄天神大牟田線）で福岡市の都心と直結しているなど、交通の便に恵まれた立地条件にあることから、住宅都市（ベッドタウン）として発展してきた。昭和40年代から50年代にかけて急激な人口増加を経験し、住民間の交流の希薄化が行政課題として顕在化したことから、目指すべき都市像を「コミュニティ都市」として、住民間の交流の創出・活性化をまちづくりの重点施策としてきた。

【現況】
・現在も、人口は増加傾向にあり、また、毎年、人口の約6.5%が転入・転出により入れ替わっている。そのため、住民間の交流の創出・活性化がまちづくりの重点施策であることに変わりなく、住民交流の基盤となる市民の郷土意識や郷土理解を深めるための取り組みが求められている。
・大野城市は、国から特別史跡に指定されている「大野城跡」と「水城跡」のほか、国から史跡に指定されている「牛頸須恵器窯跡」が存在するなど、豊かな歴史資源に恵まれている。このような歴史資源を活用して、住民交流の基盤となる市民の郷土意識や郷土理解を高めるため、歴史的文化財の保護・活用のための施設整備や、史跡へのアクセスの利便性と交流の場の整備が求められている。
・大野城市では、歴史資源をはじめとする地域資源を観光開発に活用するための取り組みを進めているところであり、住民間の交流及び市外からの交流人口の拡大を図り、都市のにぎわいを創出するため、市民が安心して安全に生活できる快適で暮らしやすい都市機能の整備が求められている。

課題

・歴史資源を保護し、情報発信・住民交流促進に活用するための拠点施設が存在しないことから、市民の郷土理解及び郷土意識を高めるための効果的な取り組みが行えない。
・史跡など、地域資源を活用したくつろぎと交流の場の整備が不十分であることから、住民間の交流を促進するための効果的な取り組みが行えない。
・情報板及び道路の整備が不十分であり、史跡など、市内に点在する地域資源を、市民が安心して安全に回遊することができない。

将来ビジョン（中長期）

【第5次総合計画後期基本計画】（平成26年3月策定）
・「まちの魅力向上」を目的とした取り組みとして、歴史・こども・観光をキーワードに、世代を超えた交流や、市民活動が行える「（仮称）大野城心のふるさと館」の整備が位置付けられている。
・「新しいまちのかたちを見据えたにぎわいとやさしさをもったまちづくり」を目的とした取り組みとして、駅などを基点として、歩きながら地域の自然・文化・歴史などを楽しめる散策路「大野城トレイル」の整備が位置付けられている。
・「文化遺産の保存と活用」を目的とした取り組みとして、牛頸須恵器窯跡整備活用計画に基づく整備と活用の推進が位置付けられている。

【大野城市都市計画マスタープラン】(平成24年3月改訂)
・道路の整備において、利便性や防災機能を向上させる生活道路の整備が位置付けられている。
・公園・緑地の整備において、市民ニーズに対応した公園づくりが位置付けられている。
・歴史環境の保全・整備において、歴史的文化財の保護、活用にかかる施設の整備と、牛頸須恵器窯跡とその周辺環境の保全が位置付けられている。

目標を定量化する指標

指　標	単　位	定　義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
市内史跡等でのイベントの開催回数及び集客人数	回（人）	市または市内観光推進団体が主催する、国指定史跡等（大野城跡、水城跡、牛頸須恵器窯跡、その他）の歴史資源や地域資源でのイベントの開催回数と集客人数を指標とする。	・住民間の交流促進の効果を測る。 ・市内史跡等でのイベントの回数及び集客人数により評価する。 （従前値は、平成25年度の実績値とする。）	10回 （1，772人）	平成25年度	17回 （3，000人）	平成31年度
地域にある自然、歴史、文化、産業などを活用したまちづくりの達成度に関する市民評価	点	第5次大野城市総合計画後期基本計画において目標に掲げられている、地域にある自然、歴史、文化、産業などを活用したまちづくりの達成度について、市民アンケートを実施し、その評価点を指標とする。（「十分達成されている（5点）」から「ほとんど達成されていない（1点）」までの5段階評価）	・地域の魅力向上をめざすまちづくりの効果を測る。 ・市民アンケートの結果により達成度を評価する。 （従前値は、平成25年度に実施した市民アンケートの結果とする。）	3．20点	平成25年度	3．29点	平成31年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
○整備方針１　歴史資源など地域資源を学習、体験する活動を通じて、住民間交流の促進を目指す。 ・博物館機能を併せ持つ地域交流センターを整備し、歴史資源など地域資源を学習・体験する交流事業の拠点施設として活用することにより、住民間の交流を促進させる。 ・歩きながら本市の史跡や自然、文化に触れることができる「大野城トレイル」を整備し、地域資源を学習・体験する活動を通じて、ふるさと意識を醸成し住民間交流の促進を目指す。 ・資源など地域資源に市民を誘うため、サインや路面標示の整備によりアクセスの利便性を向上させるとともに、現地に学習、体験ができる活動の場を整備することにより、住民間の交流を促進させる。	・（仮称）大野城心のふるさと館整備【高次都市施設】【地域創造支援事業】 ・小水城跡広場整備【地域生活基盤施設】 ・大野城トレイル（サイン）整備【地域生活基盤施設】 ・（仮称）善一田古墳公園整備【公園】
○整備方針２　都市機能の整備推進により、市民が安心して安全に生活できる快適で暮らしやすいまちづくりを目指す。 ・利便性や防災機能向上のため、生活道路の歩行空間を整備することにより、市民が安心して安全に生活できる交通体系を確保する。 ・市民にニーズに対応したくつろぎの空間として公園を整備することにより、快適で暮らしやすい生活環境を確保する。	・白木原・水城駅線整備【道路】 ・乙金公園整備【公園】

その他

様式３　目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項

交付対象事業費	2,698	交付限度額	982.7	国費率	0.364

（金額の単位は百万円）

基幹事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	費用便益比 B／C
道路		白木原・水城駅線	大野城市	直	L=50m	H27	H30	H27	H30	30	30	30	0	30	ー
公園		(仮称)善一田古墳公園	大野城市	直	A=11,000㎡	H27	H30	H27	H30	440	440	440	0	440	ー
公園		乙金公園	大野城市	直	A=490㎡	H29	H31	H29	H31	16	16	16	0	16	ー
地域生活基盤施設	広場	小水城跡広場	大野城市	直	A=5,000㎡	H28	H29	H28	H29	55	55	55	0	55	ー
地域生活基盤施設	情報版（サイン）	大野城トレイルサイン	大野城市	直	N=70	H27	H28	H27	H28	52	52	52	0	52	ー
高次都市施設	地域交流センター	(仮称)大野城心のふるさと館	大野城市	直	A=3,262㎡	H28	H29	H28	H29	1,176	1,176	1,176	0	1,176	ー
合計										1,769	1,769	1,769	0	1,769	…A

提案事業（継続地区の場合のみ記載）

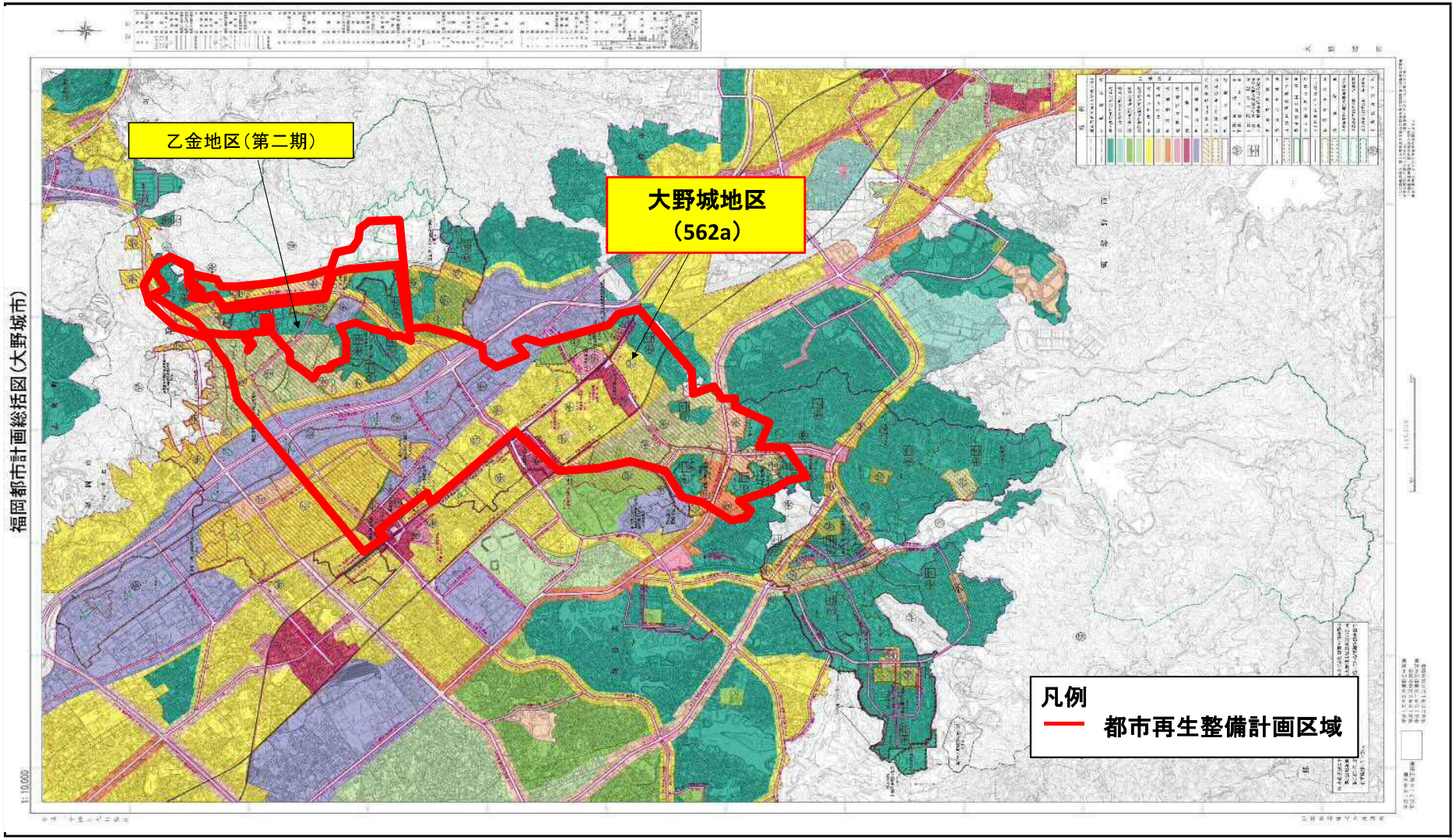
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
地域創造支援事業	(仮称)大野城心のふるさと館(博物	(仮称)大野城心のふるさと館	大野城市	直	A=3,262㎡	H28	H29	H28	H29	924	924	924	0	924
事業活用調査	事業効果分析業務		大野城市	直	分析調査一式	H31	H31	H31	H31	5	5	5	0	5
まちづくり活動推進事業														
合計										929	929	929	0	929 …B
													合計(A+B)	2,698

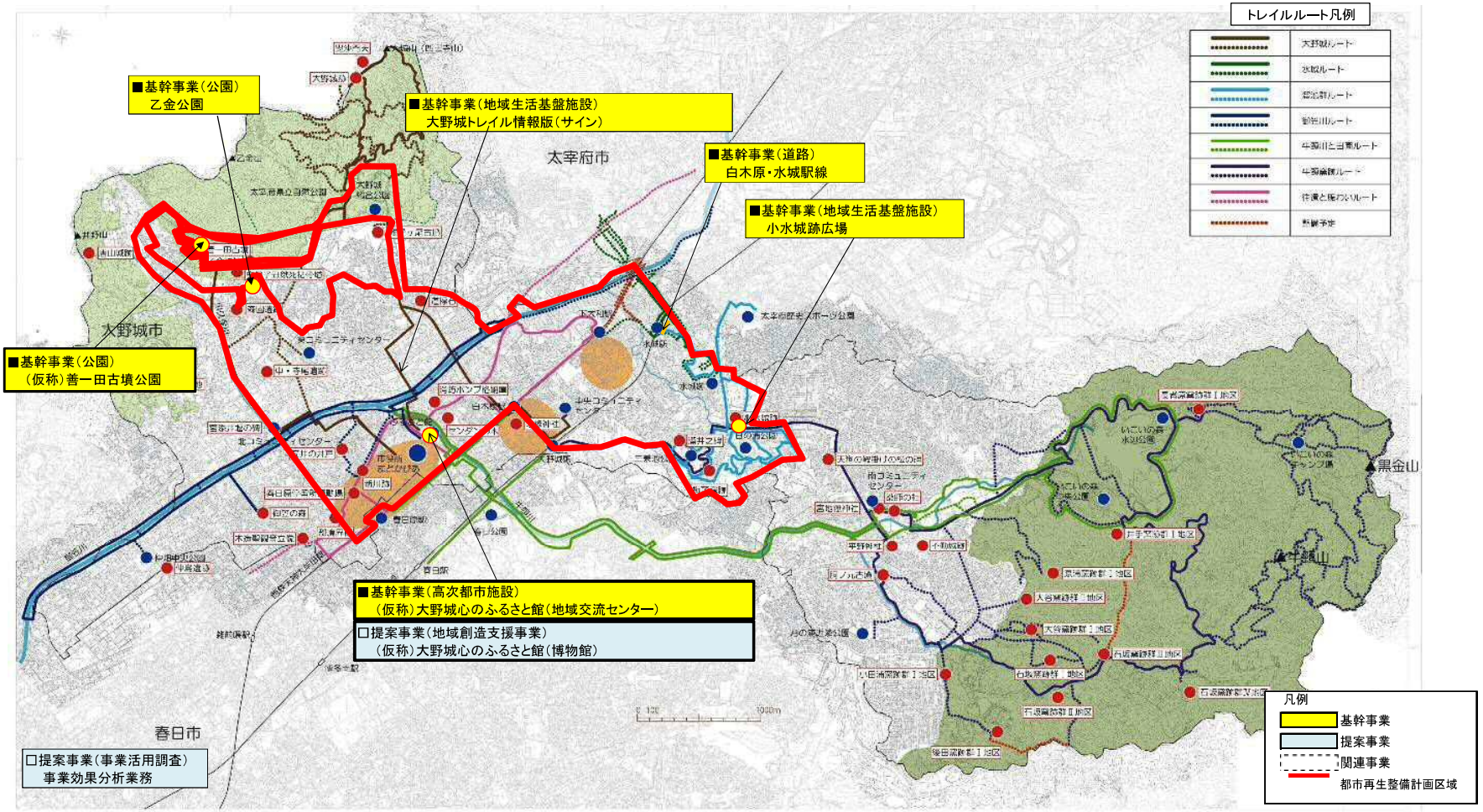
（参考）関連事業

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	（いずれかに〇） 直轄	補助	地方単独	民間	事業期間 開始年度	終了年度	全体事業費
合計											0

都市再生整備計画の区域

大野城地区（福岡県大野城市）	面積	562 ha	区域	曙町の一部・旭ヶ丘の一部・大池・大城の一部・乙金の一部・乙金台・乙金東の一部・上大利・川久保・瓦田の一部・栄町の一部・雑餉隈町の一部・下大利・下大利団地・白木原の一部・中央・筒井・中の一部・錦町・東大利・御笠川の一部・瑞穂町の一部・南大利の一部・山田の一部



大野城地区（福岡県大野城市） 整備方針概要図

目標	大目標　歴史資源など地域資源を活用して、地域の魅力向上と快適で暮らしやすいまちづくりを図る。 目標1　歴史資源など地域資源を学習・体験する活動を通じて、住民間交流の促進を目指す。 目標2　都市機能の整備推進により、市民が安心して安全に生活できる快適で暮らしやすいまちづくりを目指す。	代表的な指標	市内史跡等でのイベントの開催回数及び集客人数	（　回・人　）	10回・1,772人　（H25年度）　→　17回・3,000人　（H31年度）
			地域にある自然、歴史、文化、産業などを活用したまちづくりの達成度に関する市民評価	（　点　）	3.20点　（H25年度）　→　3.29点　（H31年度）